

# 第16回「議員と語ろかい」報告書

総務文教常任委員会

開催日	平成27年8月18日(火) 午前10時00分 ~ 午前11時40分		
開催場所	議会棟 第3・4 委員会室		
団体名	支援を必要とする子どもを持つ親の会	参加人員	5人 (男 0人:女 5人)
出席議員	池田 綱雄、 有村 隆志、 平原 志保、 阿多 己清、 中村 正人 松元 深、 塩井川 幸生、 池田 守、 前川原 正人		
役割分担	委員長(池田 綱雄) 副委員長(有村 隆志) 記録者(松元 深)		
テーマ及び具 体的な内容	特別支援教育の徹底と不応児や家族への支援強化		
感想	教育現場での実情に驚いた。 教育委員会、教育現場での調査の必要性を感じた。		
反省点	多くの意見聞くのには参加者5名は少なかった。		
次回に向けて の改善点	団体との、語ろかいでは、事前学習会の必要性がある。		

◆は参加者の質問・要望 ◇は議員の回答

## <意見交換会での主な意見等>

### ◆現状について (\*参加者の声であり、実証はしていない)

ある学校では、発達障害と診断を受けている生徒 6名である。

診断は受けていないが、グレーゾーンの生徒もいると思う。

国では6%程度の、存在を示しているが、現状で10%を超えている。

教育現場での、教員の対応が悪いし、間違っていると思う、地域の住民も、全く知らない状況である。

(具体例) 教員から

- ・親のしつけが悪い(これまでどんなしつけをしてきたの)
- ・宿題を忘れたら、授業中いっぱい、説教もある。
- ・校内放送で呼び出され、説教されたこともある。(いじめが始まる原因にもなっている)
- ・宿題の内容、量の相談をしたが、応じてもらえない。
- ・保健室や図書室への入室などを制限された。

(その他の意見)

- ・発達障がい児には、それぞれ症状の違いがある。
- ・対人関係に難がある人
- ・読みはうまくできても、書くことが苦手な人

- ・物事に集中できない人
- ・人によっては、かなり無理な事項が多い中で、強要されていることが多い。
- ・ある中学校では、全員部活を奨励しているので、かなりの負担感がある。
- ・できないことで怒られ、困って居場所を失っている（不登校の要因とも考えられる）
- ・ある学校に行けなくて、特認校の中学校に登校している。
- ・子ども発達センター等、霧島市の発達障がい者支援への取組は理解されているものの、県外の事例などを示し、施策の遅れに対し意見が出された。

◆要望等について

- ・学校現場の先生方への教育の充実（専門家がほしい等）
  - ・支援員の数を増やしてほしい。
  - ・フリースクールの予算の充実（終了時間の延長 現在の終了時間 15:00）
  - ・発達障がいに関する研修（教員、一般の方を含めた啓発活動を進めてほしい）
  - ・保育園・幼稚園の中でも、保育士等職員が、気になる子の親に対して助言できる体制がほしい。
  - ・ペアレントトレーニングなどの充実を求める。
  - ・保護者と共同して、対応していくと教育委員会では回答されているので、具体的な対応を求める。
  - ・悩んでいる人は、氷山の一角と思われるので、今何が必要かを検証し、早急な対応を求める。
- 以上、参加団体の方々の、意見要望をそのまま掲載した。